



## 赤い羽根共同募金作文・ポスター作品コンクール 2018 優秀賞

### ぼ金でできること私ができること

五所川原南小学校 6年 加藤音乃

6年生になって運営委員会で、赤い羽根ぼ金の活動をしました。この活動を通して、ぼ金をお年寄りの福祉活動に役立てていることがわかりました。

4年生の時、福祉体験の授業で車いす体験をしたことを思い出しました。車いすに乗って町内を進むと、せまい所が通りにくかったり、信号わたっている時に赤になっても急に早く進めなかったりして、とても大変でした。でも、友達が「大丈夫?」と声をかけてくれたので、安心しました。この体験を通して、1人で車いすに乗ると転んでけがをしてしまうのではないかと思いました。きっと、車いすに乗っている人達は自分1人で、いろんな所に行けるとうれしい気持ちになると思います。だから、車いすの人達がたくさんの方が、できるような町になってほしいです。

また、高れい者ぎじ体験もしました。見えにくくなるゴーグルを付けて歩きました。5メートル位先も見えにくく、とてもこわかったです。足に、重いサポーターをつけて階段を登ったり、手にも重いサポーターをつけて豆をはしでつまんだりしました。足が重くてあまり上がらなかったの、転びそうになりました。でも、友達が手をつかんで、私のスピードに合わせて歩いてくれて、とても助かりました。

いつもは、ふつうにやっていることができなくて大変でした。でも、友達が助けてくれたおかげでできました。きっと高れい者も、できない事があったら介護をしてもらえるととても、助かると思いました。だから私は、町でお年寄りが困っていたら、自分からやさしく話しかけて助けてあげたいです。

この福祉体験を通して、私は「自分1人でできることのうれしさ」と「介護の大切さ」がわかりました。また、車いすの人達と高れい者の大変さもわかりました。

車いすの人達や高れい者の人達が自分1人でいろいろなことができる町、町の人たちが車いすの人達や高れい者の人たちに会ったら、すすんで声がけや手助けをしてくれる町、こういった町になってほしいと思います。そのために、私が運営委員会でぼ金活動をして集まったぼ金が使われたら、うれしいです。

私は、ぼ金活動は終わってしまったけれど、私ができる福祉活動進んで行ってみたいです。